

平成27年度 第2回学校評議員会 報告

平成28年2月24日(水)

14:40~16:50

場所:盛岡二高 応接室

進行:副校長 記録:総務

- 出席者 学校評議員 4名 学校職員 9名
- 日程 13:30 受付 13:40 授業参観 14:40 評議員会 (~16:50)

1 開会のことば 【副校長】

職員・評議員 自己紹介

2 校長挨拶 【校長】

日頃から本校の教育活動に対し、様々な支援、ご協力をいただいていることに心から御礼を申し上げます。

学校評議員は、開かれた学校作りを推進するために地域の方々や関係各位の皆様からご意見を頂戴し、学校運営に反映してゆくために設置されたものである。多様な立場の皆様から学校運営等に参画していただき、学校の教育方針やその改善に向け、組織的な取り組みをすることができるようにしたものであり、PTAや同窓会等とは趣旨が異なるものである。6月の第1回では、今年度の経営方針を説明申し上げ、評議員の皆様から貴重なご意見をいただき、今年度の教育活動を進めてきたところである。これまでに校内としては、保護者を含む教職員・生徒による授業評価、保護者・生徒・教職員による学校評価を行い、全体反省会議を行って今年度を振り返り、来年度に向けて何をどのように改善してゆけば良いかを検討している。

今回学校概況を主として経営計画、生徒の日常の様子を含めて各課の取組状況、学校評価について、それぞれ説明した後、ご意見ご助言をいただき、来年度の運営方針を早めに策定し、各課の重点目標に反映していきたいと考えている。内側では気づきにくい事や日頃本校の教育についてお考えになっていることをご指摘いただきたいと思っている。

この場を借りて入学者の状況、大学志願者の状況と高校再編計画案についてお話しする。

本校の定員は、一学年40人5学級の200人。推薦入試の定員は全体の10%で20人。23人の志願があり20人が合格した。1.15倍であった。一般入試は残りの定員180人に対して2月17日現在165人の志願で定員を割っている。明日までの調整期間での増加を願っている。昨年度は240人の出願だったので、俗に言われる振り子現象の他に、今年度低倍率の要因の有無を探っていかなければならないと考えている。

また、昨年12月に公表された今後5年間の高校再編計画案では、定員維持が示されたが、盛岡地区の生徒数が減少する中であって、その後の5年間は今後計画を策定するということであり、安心してはられない状況である。

これからも生徒・教職員みんなで、中学校の先生方、生徒、地域の方々の励まし、助言やお力添えを得ながら、中学生が志願したいと思う学校にしていきたい。

3 平成27年度学校概況説明

ア 運営方針について(資料:平成27年度盛岡第二高等学校経営委計画) 【校長】

(1) 学力向上・進路希望実現

資料のアについては、55分6時間授業にして2年目になった。55分の使い方、工夫改善が必要である。以前は45分7時間授業であった。55分にすることには、いろいろな議論をし、“このような授業にしよう”という意識をもって55分にしたが、2年目になると、ともすれば、なんとなく55分授業をやっている向きがないこともない。何のために55分にしたのか、55分をどのように使っていくかを改めて工夫し改善していかなければならない。

基礎基本の定着、応用力の養成、持続性のある自発的な学習習慣の育成と学力向上については4点セットで、教職員も生徒も今後取り組んでいかなければならない。生徒は、授業はわかると答えているが、実際に問題が解けるか、尋ねられたときに答えられるかという点が、アンケートでも差があるところである。

資料イについては、授業公開は100%実施している。授業改善と授業力向上につなげていきたい。

資料エについては、国公立大学の合格者数については大きな課題である。国公立大学の合格者数一つの目標としているのは、国公立は受験科目数が私立大学と比べて多いということもあり、総合的な学力、全教科全職員の指導力の向上にもつながるものと考えているからである。

(2) 部活動・特別活動の充実

資料のア、イについては、勉強時間と部活動時間との関係では、特に日が長い時には帰りも遅くなり、家に帰ると疲れて勉強が手につかないこともあるようだ。

全国大会には、なぎなた部、箏曲部、美術部、視聴覚委員会、囲碁将棋同好会が出場。東北大会には、このほかにバレーボール部が出場している。

応援委員会は、いろんな場面で活躍している。委員会活動は委員会によって活動状況に差がある。

本年度の国体は部活動ではなく、個人で活動しているライフルとボウリングの二人が国体に参加した。また、なぎなた部からも一人参加し、釜石商工との混成チームとして演技部門で5位に入賞した。来年度のいわて国体に向けて、なぎなた、体操、ハンドボールの生徒が強化選手に指定されている。

(3) 心身の健康、豊かな人間性の育成

資料のアについては、日常生活指導について、基本的な生活習慣の確立には二重線を引いているが、朝学習開始時刻に遅れてくる者が固定化しているという面がある。

資料のウについては、個に応じた支援体制について、それぞれ対応しているが、まだまだできるというところもある。休み始めた時の対応等、少し改善の余地があると考えられる。

資料のエについては、情報モラルの徹底は、危険性は伝えているが、まだ理解せず写真を迂闊に載せて、学校にメールで通報があったこともある。便利だが、その危険性についても一層指導していかなければならない。

今年度当初は、605名の在籍で、現在602名である。3名の在籍異動があった。2名が通信制高校への転学、1名は退学した。

(4) 開かれた学校作りの推進

学校としてはやっているつもりだが、保護者からはまだ不足との意見をいただいている。

進路指導についても、小まめに生徒に情報提供しているが、学校評価等では、もっと連携を深めて欲しいというご意見もある。今後とも広報活動、情報発信に努めたい。非常天災時の伝達体制としては、HPへの緊急掲載の他、メール配信についても検討している。

(5) 組織力の向上とコンプライアンス

倫理意識の保持、責任と使命の自覚については、全職員で律して、お互いに注意し合える環境作り、あるいは、体調が悪い人には隣近所で声をかけられる環境作りを考えている。

○「いわての復興教育・防災教育」の推進

1年生全員が、県からの予算で被災地に行ってきた。また、大槌へはJRC・華道部、田老には生徒会の役員を中心にして、希望者を募って行ってきた。宮古北高校へは、文化祭での生徒の収益金を差し上げた。

【目標と結果】(基礎力確認調査)について数値説明

結果としては、国語・数学は「わかる」という答えよりも正答率が低いが、英語は「わかる」が51%に対して正答率が60%である。テストの結果として英語はよくできる。今回の実施率は100%。

自分に良いところがあると思っている割合は65%を目標と考えたが、結果は59%だった。困っている人を進んで助けたいと思う割合は、一人も「そう思わない」という生徒はいなかった。「二高に入って良かった」と感じる割合は90%を目標にしたところ、86%であった。春の調査と12月の調査でも同じ割合だったが、なお高められればと考える。

P.T.A総会への参加率は、25%の目標。授業参観も普通の授業ではなく、体育で動きのある授業にしたところ27%という割合だった。これをもっと高くして保護者に学校に足を向けていただける状態を作りたい。

学年P.T.Aの進路学習会は、1、2年生は10月、3年生は4月に実施しているが、それぞれの目標には届かない状況。足を向けようと思ってもらえる進路学習会にしていきたい。

イ 各課の重点目標

(1) 総務課

(P.T.A活動の活性化)

今年度の活動の中心は、8月まではP.T.A関係で全国高P連の岩手大会の開催であった。8月以降は、120周年記念事業協賛会設立があり、この二つを軸に今年度は活動した。

全国高P連岩手大会は、9,500名規模の大会であった。本校も県民会館での第2分科会を担当し、1,500名の参加者の会場を運営した。P.T.Aという組織の大きさや活動の深さを実感した大会だった。本校から述べ92名のP.T.A役員、理事を中心とした方々に協力いただいた。いつも顔を合わせているが、一つの事に取り組むという活動がなかったので、この大会を通して連帯感を持ったのではないかと思う。本校のみならず、一戸高校、福岡工業高校など協力校のP.T.Aの皆さんとも一緒に活動した。県内の他校の方々と

もお互いの立場を理解しながら活動に取り組んだ。県全体を見渡す、あるいは全国の多くの仲間との結びつきを感じ、それらを運営したことで二高PTAとしての誇りも自覚できたと思う。手探りの状態でスタートしたが、献身的に自ら考えて行動していただき、成功裏に終わった。

再来年度には、規模が小さくはなるが東北大会が開催される。今回の蓄積したものを糧に、東北大会も取り組んでいきたい。PTAは、年度ごとにメンバーが替わっていくが、次に伝えてゆく継承も含めて、活動を活発にしていきたい。

PTA総会については、体育科の授業協力を得てPTA総会も体育館で開催した。授業公開というかたちで、1、2年の集団行動やダンスを見学した後に、その場で総会を開いた。総会自体のあり方や中身を考えているいろいろな課題があるが、160名を超える参加で、ほぼ昨年倍の参加があった。まずは、保護者の方に関心を持って学校に目を向けてもらうということからのスタートではないかと感じている。それ以外の行事についてもその点を考えながら進めていきたい。

(120周年記念事業) (同窓会との連携)

120周年事業は現在、協賛会を立ち上げ、全体の枠組みの話し合いを経て、委員会の活動に入っている。同窓会、PTA、学校の三者がひとつになっての活動である。この三者が一緒になっての活動は今まで経験がないので、各委員会での顔合わせをして全員が関わっていく組織で進めていく。現在はまだ、各自が自分のものにはなっていない感じがあるが、総務の世話役がそれぞれの委員会に入って調整役として進めていきたい。いずれそれぞれの立場で自覚を持って活動していただけるものと思う。各委員会では、一回目の顔合わせを行っている。3月17日には、今年度最後の役員・実行委員合同委員会を予定している。今までのまとめと、次年度への提言を行いたい。その中でも、記念式典の講師をどなたにお願いするか、募金の趣意書の内容をどうするかなど、全体に関わる内容もあるので、委員会に限らず全体を眺めて考えてもらえるように総務としても自覚を持っていきたい。三者の連携なしでは成り立たないので、それぞれが同じような足取り、意識で進めてもらえるようにするのも総務の仕事と考えている。 (～15:15)

(総務課に関する質疑)

【 評議員 】 120周年は来年ですか？

【 総務主任 】 再来年度、平成29年度10月21日(土)である。

(2) 教務課

(授業研究・評価の改善)

55分授業をはじめ2年目である。完全実施を目標に行っている。教員は2分前に職員室を出て、チャイムが鳴ったらすぐ教室に入って授業ができるようにしているが、生徒の中には、先生が来てから準備をする等の状況がある。来年度は予鈴など工夫して、生徒の意識を改善したいと考えている。

教職員の授業改善は、情報研究課が主になって、授業公開と研究会を行っている。一人が授業公開を年2回行い、成果も出ていると思う。やり方については、改善していきたい。授業アンケートのフィードバックは今後も続けていきたい。

(主体的な学習態度の育成)

職員室前の机で勉強をする生徒が増えてきている。さらにそのような生徒を増やすために、机や白板などを増やすように進路課とも検討していきたい。

家庭学習の時間は、過年度比較や年2回の調査では、7月と比べて学習時間が減ってきている。考査前は教室・ラウンジ・自習室などでとてもよく勉強しているが、考査が終わるとぱったりといなくなる。通常から学習する習慣をつけないといけない。声かけをしていきたい。

英語検定は、1学年全員受験で1月に実施している。来年度も継続したい。

(開かれた学校づくり)

本校は7月下旬に一日体験入学を毎年実施。参加人数は昨年よりも減っているが、アンケート結果を見るとプラスの答えが多い。今後もマンネリ化にならないように、検討しながら継続していきたい。

「学校へ行こう週間」については、昨年は20名に対して今年度63名と増えている。一日体験入学に参加できなかった中学生も何名か学校へ行こう週間を利用して見学した。実施時期や周知方法など検討してさらに中身のあるものにしたい。

(教務課に対する質疑)

【 評議員 】 休み時間は10分ですか？ その中での予鈴というのは5分前に鳴らすのですか？

【 教務主任 】 休憩は10分。予鈴は2分前くらいに鳴らしてみたいと思う。

【 評議員 】 生徒としては45分の授業と55分の授業と比べて長いと思っているか、自分たちには

合っていると思っているのか。

【教務主任】 最初は10分も長くなったので、長いというイメージがあったと思うが、今は慣れたと思う。教科によっては活動も増えている。

【副校長】 先ほどご覧になった授業の感想については、また後ほど願います。

(3) 生徒指導課

(生徒規律の確立)

整容指導・服装点検など、市内の高校の中ではルールが厳しい学校だと思う。登校時の服装は、黒か紺のコートというような制限をしている学校はなかなかない。夏の服装についても、本来は生徒手帳に、ベストを脱いでも良いと書いてあるが、脱いだときの状況がだらしく見えるので「ベストを脱いで良い」という文言を外した。そのかわり、暑い中で勉強に集中させるためにどうするかということで、課外等においては、体育のTシャツ短パン着用で授業を受けるという方向で進めている。生徒が気持ちよく勉強できる環境と、服装・身だしなみとのバランスをいろいろ考えている。

SNSに関して、ここ数年で携帯・スマホなどの環境が変わってきている。今までは、入学時に合格祝いで携帯を買っているのが常であったが、ここ2～3年では、すでに中学校の段階で半数以上の生徒が携帯・スマホを持っている。指導については入学手続きの時に保護者も含めて情報提供や家庭でのルール作りをお願いしているが、もっと早い段階での指導が必要になってくると考える。

携帯電話の違反についてのペナルティーも他校より厳しいと思う。校内に持ち込む場合は電源を切り、校内では一切使ってはいけないというルールである。市内の状況を聞くと、昼は良いとか放課後は良いというルールもあるが、本校では一切使用禁止である。もし使う場合は、放課後に校舎から出て使うことになる。それでも違反する生徒はいるが、その場合は、A4用紙に反省文を書かせる。2回以上の場合は保護者召喚である。

盗難6件、不審者3件、苦情7件があった。盗難は、残念ながら校内で金銭抜き取りがあった。犯人を特定するところまでは行かなかった。貴重品管理や教室の施錠など徹底して現在は落ち着いている。

(生徒会活動の活性化)

全国大会出場 運動部1、文化部6

ライフル射撃、ボウリングなど外部活動の生徒も国体に参加している。

国体については、二高をPRする絶好の機会になると考える。来年はいわて国体がある。二高生、または卒業生が参加し、二高の名前を全国に発信して欲しい。

(安全指導の徹底)

毎年春先4～6月に自転車事故が多発。冬場はほとんどの生徒が自転車を使わない。秋頃から自転車を使わないので事故は減少する。春先の対応で毎年あるのが、運転者の不注意で事故に巻き込まれるケースである。ただし、生徒も対応がわからずに「大丈夫」と言ってしまったため、相手が特定できずに警察に詳しい状況を調べていただくということも何件かあった。生徒に対しては、事故に遭ったときの対応を指導しているが、実際にきちんとした行動がとれる生徒は少ない。昨今多いのは、車との接触があった時に、修理代を請求されるなどのトラブルである。将来大人になって車を運転した時の対応も含めて指導している。

(生徒指導課についての質疑)

【評議員】 2～3日前の判決で自転車事故が重罪となった。自転車事故については、一回ではなくて何回も繰り返し被害者にも加害者にもならない指導をして欲しい。

苦情7件とはどのような苦情か。

【生徒指導主任】 一番多いのは、バスの乗車マナーなどである。以前は電話での苦情が多かったが、最近ではメールで匿名の苦情が増えている。

【評議員】 匿名の苦情については、名前を隠して言うものはあまり取り合わなくて良いと思う。本当に対応して欲しければ名乗るのがルールではないか。

【副校長】 学校のHPにアドレスがあるので、生徒情報について匿名のメールを入れることがある。以前、指摘された生徒に確認をとったが、そのような事実はないということがあった。

【評議員】 スマホの取り扱いについて、修学旅行の時は、写真は撮っても良いとか、部屋では通信も良いとか、そのような特別なルールはどうしているか。

【生徒指導主任】 基本的には学校行事に関しては、携帯・スマホの利用は禁止にしている。文化祭の時に写真機能を使わせて欲しいという生徒がいたが、撮りたい時はデジカメを持ってくるように指導している。

- 【 評議員 】 徹底していて良いと思う。本校では、修学旅行の時に写真はOKにしたが、他の場面でも使用していて指導することもあり、難しいと思った。参考にしたい。
- 【 評議員 】 二高生に限らず今の高校生は、バスでも列車でもスマホに夢中になっている光景をよく見る。世の中全体の問題だと考える。今の子供たちは無限大のつながりを持っている。良い部分もあるが怖い面もある。学校だけではなく、家庭教育も必要と考える。勉強する時間のことやそのほか、やることがたくさんある時代の子供たちだと思う。

(4) 進路指導課

(進路状況報告)

在籍199名のうち、現在135名の進路先が決まっている。64名が進路達成に向けて勉強している。

(進路意識の涵養)

ここ3年ほど、推薦の傾向を見ると県外に目を向ける生徒が少なくなってきたため、推薦の出願者数、合格者数も年々減ってきている。今年度は県外へ目を向けて欲しいということで、進路ガイダンス、進路講演会、また1年生は「夢ナビライブ」という大学の講義を見に行った。その成果もあり、志願大学、受験者数も増えた。課題は、どのような職業があるか生徒は理解していないし指導が足りないと感じている。

学部学科研究も、近年のめまぐるしい情勢の変化で名前だけではわからないものも多く、研究が不足していると考え。改善策としては、低学年時における進路ガイダンスを充実させたい。

(推薦入試指導の充実)

例年100名程度の生徒が推薦入試を受験しているが、国公立大学受験者は年々減少している。合格率は、毎年50%前後を維持しているので、出願数が合格数と連動している。県外に出なければ学べない分野があるが、なかなか目が向かない事が課題と考える。推薦入試は100名前後の希望者がいるので、全職員で3~4名を担当して手厚く指導している。今年度は、合格率も高かったため、今後もこのような指導を継続したい。

(一般入試指導の充実)

本校は、センター試験は全員受験。今年度は、全国平均が文理とも20点の上昇であったが、本校は昨年比で50点上昇したのは大きな成果だった。一方で、高得点者は増加しておらず、一般入試で合格できる生徒は昨年並みなので、上位者対策が不足していたとも言える。上位者についてはもう一步の手当が必要と考える。明日の前期試験には35名が挑戦する。今後、後期試験には17名が出願予定である。

(進路情報の提供・発信)

保護者向けのPTA進路学習会は、参加率が昨年より若干下がっている。原因については、案内の不足など考えられるが、把握しきれていない。参加した保護者には、ある程度評価してもらっているので、参加率の向上が必要と考える。今年度は、生徒・保護者宛に進路通信を発行してきた。A4版表裏で2月までに25号発行した。先日のPTA理事会で保護者から、発行していることを知らない家庭もあると聞いたので、保護者への情報提供の方法が課題となっている。

(進路指導課についての質疑)

- 【 評議員 】 生徒たちの意識を県外に向けたいという説明だったが、卒業生で岩手に残る生徒と、外に出る生徒の割合はどれくらいか。
- 【 進路指導主任 】 過去3年間では、ほぼ半々である。48:52とかその程度の差で、3年間ほぼ5:5で推移している。なぜ、国公立大学の合格者が減少しているかという点、私大や専門学校希望者で県外に行く生徒は増えているが、国公立大学で希望する生徒は逆に減っているからである。

(5) 保健厚生課

(健康管理・安全管理の徹底)

健康管理については、生徒の健康の増進が主な目的である。様々な講話・講座を通して健康に関する意識の喚起を行っている。特に、歯科保健講話等と連携して、全校生徒に歯ブラシセットを持参させ、昼

休み等の歯磨きを奨励している。習慣になっている生徒も増えてきている。

反面、保健室を利用する生徒の数は減らない。女生徒と言うこともあるが、身体的な不調を訴える生徒は常にいる。多い時には、一日に10～20名訪れている。心配なのは、身体的なことに加えて精神面で養護教諭に相談に来る生徒が定着している状態である。そのような生徒については、教育相談と連携して対処していかなければならないと考える。

保健室利用のあり方について、日によっては朝から晩まで生徒が訪れるので、養護教諭が出張等で不在の時は、生徒の対応がなかなかできない。保健室には生徒を一人では置かないで、他の職員が生徒の対応をするかたちを徹底している。

今年度、生徒の保健委員会が自主的に各教室のゴミ調査を行った。各教室のゴミ箱が目にも余るほどあふれている。特に菓子類のゴミが目立っているということで、これは健康にも関わることなので、まず、どれくらいの菓子を摂取しているのかを調べるため、菓子類のゴミだけを調査する週間を作って調べた。その結果を様々な場面で発表している。それをきっかけにして、全校生徒が健康やゴミに関する意識が改善されるという意味で一定の成果を上げている。保健委員会は組織活動ということで、意欲のある保健委員、特に3年生が中心に発案して活動したが、このような生徒の活動を促進することによって生徒全体の健康、安全に対する意識の向上を来年以降も図っていきたい。

(保健厚生課についての質疑)

【 評議員 】 授業を見せていただいた折につくづく教室を眺めたが、この校舍も10年目になるそうだが、とてもきれいである。床もデコボコがなく清掃しやすそうだ。机・椅子も傷もなくて広く、黒板も広くて素晴らしい。階段に掃除機も置いてあり、とてもきれいな良い環境である。

(6) 教育相談課

(教育相談の充実、不登校への早期対応)

本校が独自でお願いしているスクールカウンセラーに加えて、今年新たに、県の事業で行っているエリアカウンセラーを月1回お願いして、二人のカウンセラーに来校していただいた。結果的には相談件数は昨年と変わらない状況。来年は年度初めのガイダンスや、カウンセラー通信などを出しながら広く生徒たちの利用を促したい。

不登校生徒への早期対応は、ケース会議を行い、早い段階で関係者が集まって支援を検討している。来年度は、本校独自の個別の指導計画や個別の教育支援計画を練って、外部の専門機関と連携を図りたい。

(学校不適應の予防)

グループエンカウンターによる仲間作りを、入学後すぐに行っている。心理検査のQUについても心配な生徒に関する独自の資料を作って情報共有を図っている。

昨年度は年間30日以上欠席している生徒は6名いたが、今年は昨年よりは少ないだろうと考えている。

(7) 図書課

(蔵書の充実と読書活動の推進)

今年度の、貸し出し数は3,460冊である。昨年度は2,400冊だったので、今年は1,000冊以上上回っている。読書会で強制的に読ませたものは、この数字に含めていないので、生徒が図書館に足を運んで借りた数字である。先ほど、評議員さんからも1冊寄贈いただいた。また、中古の本を安価でたくさん購入し、蔵書の充実を図っている。

読書コンクールについても積極的に応募している。県の青少年読書コンクールでは、会長賞や優良賞2名の入賞など、結果を残している。

(図書委員会活動の充実)

図書委員による図書館報の発行や、「教育に新聞を」というNIE活動の指定校として、8社の新聞を購読してミニプレを進めている。関心のある記事を切り抜いて、SHR時間に生徒が記事を紹介して感想を述べる活動をしている。このような活動が推薦入試合格率の向上につながっていると考えられる。

(芸術鑑賞会の実施)

本校では、音楽と演劇と古典芸能とをローテーションして鑑賞会を行っている。来年度は古典芸能で、一龍斎貞水(人間国宝)による講談を予定している。

(図書課についての質疑)

- 【評議員】 生徒たちに「読ませる」努力は、よくやっていると思う。学校に来て図書館に寄った時に、図書館の入口のテーブルに、半月ほど前に話題になった本が既に置いてあったことに驚いた。そのような、生徒に読ませようという姿勢は良いと思う。そのお手伝いができればと思い、今日は文芸春秋が初めて出した漫画本、「大学について」(非売品)を持ってきた。
- 【副校長】 「読書は二高文化」というスローガンを新たに生徒達へも浸透させていきたいと考えている。
- 【評議員】 よく読んでいる生徒は、卒業してから、どこかで必ず役に立つと思う。本を読んでいる人は違うと思う。
- 【校長】 入学時に「赤毛のアン」を読ませるのは3年目。今年卒業する生徒から全員読んでいる。県の事業で1名補助員として教員の他に図書館に常駐している。その補助員が季節のデコレーションをしてくれている。本を借りなくても図書館に行ってみようかなと思える環境を作っている。

(8) 情報・研究課

情報課という分掌はたいいていの学校にあり、主な仕事は情報ネットワークの管理とHPである。本校ではさらに研究課というものが加わり、授業研究の推進を図っている。

職員を10グループに分けて、年間約60回の授業公開と校内研修を行っているが、この企画をしているのがこの情報・研究課である。

さらに、高教研事務局というのは、岩手県の各教科の部会、生徒指導、進路指導等の専門部会と、各学校、県教委との窓口になるというような事務的な仕事も行っている。

その他、視聴覚委員会の指導など、多くの仕事を3名の教員で担っている。HPなど、もっと良いものをもとを考えているが、少人数で手が回らないところもある。併せて120周年もあるので、HPも120周年の窓なども工夫していきたい。

(~16:00)

。。。。。。 10分休憩 。。。。。。

炉辺談話

- 【評議員】 進路通信は、PTA総会の時に資料に差し込むとか、三者面談のプリントにつけて渡すなど工夫してはどうか。

(再開)

ウ 学校評価結果について

今年の回収率は、生徒、保護者、教員ともほぼ100%回収した。質問項目も過年度比較のために昨年と同じ質問である。

それぞれの質問に対して、「大いにそう思う」がA、「そう思う」がB、「あまり思わない」がC、「思わない」がDということで答えてもらっている。AとBをたして肯定的評価として合算したものが示してある。

(P7分析1) 今年の大きな特徴は、肯定的評価が、生徒と教員で全ての平均の値がそれぞれ3%アップしている。保護者は、昨年も今年も全平均は7.9%である。ただし、その中でもAの比率が昨年よりもアップしている。全体的には肯定的な評価である。

(分析2) 最も三者の評価の平均が高い項目は7番「生徒会活動や部活動の活発さ」である。三者の評価の平均は9.6%であった。具体的には、二高独自の合唱コンクール、生徒会主催の復興支援などの印象が強かったのではないかと思う。

14番「二高に入って良かったと思うか」という質問については、生徒については90%を目標にしていたのに対して86%だった。しかし、保護者の回答は91%だった。昨年よりも生徒は二高に入って良かったという回答が増えている。

今年の教育実習生は6名来た。その実習生に、二高に入って良かったことはどんなことがあったかアンケートをとった。その中で6名が共通してあげているのが、「教員との関係がとても良い」と答えているのが印象深く残っている。現在の二高生についても少なからずそのようなこともあるのではないか。

(分析3) 評価が低い項目について、昨年度と比較して大きく評価を下げた質問はなかった。しかし、全体の中で低い質問は、例年同じだが5番の「応用力のつく授業が実践されているか」という質問で、三者の平均が6.7%だった。唯一肯定的評価が7割を切っている。5年前の平均が5.1%だったので5年前に比べると評価も上昇しているが、応用力は受験力に直結する部分なので、あげていかなければならない。

三者の評価が大きく別れる部分について、保護者と教員において2.5%以上評価が違うところがある。

3番「学習指導が徹底されているか」という質問については、教員の評価が甘いのか、保護者の評価が厳しいのか、大きな差がある。

12番「適性を考慮した進路指導が行えているか」という質問も、2.5%という大きな差になっている。

13番「保護者と連携した進路指導が行われているか」という質問が一番大きな差で、2.9%である。

18番「保護者と連携したPTA活動が行われているか」という質問も、26%である。

これらの点について、我々も保護者の皆様から率直なご意見等をいただいて差を埋めていかなければいけないと考える。

(学校評価に関する質疑)

- 【 評議員 】 保護者と教員の差が大きいところの説明があったが、13番と18番どちらも「保護者との連携」についてである。保護者と教員の、生徒に対する目線の位置が違うのではないかと。
- 【 進路指導主任 】 我々の指導のスタンスとしては、生徒に「無理だ」という言葉は使わない。学校全体としても自分の可能性を信じてやりなさいというような、後押しをするような指導を行っている。先日のPTA理事会でも話があったが、学校で指導していることが保護者に伝わっていないのではないかとという意見があった。たとえば、進路通信は、出したら「見ましたか？」と確認をするような仕組みを作ったらどうかという意見があった。情報を出しっぱなしで、伝わっているかまで確認ができていないところに対する保護者の不信感もあって低評価なのだと考えている。
- 【 副校長 】 学校では、こまめに面談を行っている。生徒は納得して進路を進むが、その経過が保護者に伝わっていないということがあるかもしれない。
- 【 評議員 】 いろいろなプリントを生徒が間引きして保護者に渡すことは昔からあり、それはいつも問題になってきた。今は情報社会なので多くのプリントでの連絡が多いと思う。それらを生徒が、全てを保護者に出していないのではないかと。その点は家庭の問題でもあるが、親が共働きで忙しいこともあって、「見て！見て！」と言わないと見てもらえない事もあるのではないかと。
- 【 評議員 】 親というのは、学校は何でもしてくれるという期待があるので、そこから先生の立ち位置の厳しさもあるのではないかと。また、時には進路通信の端などに切り取り感想欄などを作ると、クラスに何人かは書いてくれる保護者もいるのではないかと。一方的な発信だけではなく、相手から返ってくるかたちがあればいいのではないかと。
親が自主的に参入しているかということとは実はそうではなく、「学校側はここまでやってくれる」と求める傾向がある。得てしてこのようなアンケートは、このような数字になるのではないかと考える。
- 【 副校長 】 18番のPTA活動に関する保護者との開きについてはどう考えるか。
- 【 総務主任 】 PTAの中の、理事と一般の会員である保護者の方とでは明らかに差がある。学校側でも、理事とのやりとりは綿密にやっているのでは意識はあると思う。しかし一般の保護者についてはそこまで浸透していないと考える。やはり、一般の保護者には一方的な伝え方にしかならず、保護者の考えを吸い上げるような工夫をすれば違ってくるのではないかと、先ほどのお話を聞いて思っている。
PTA活動＝理事との活動ではないということ意識して、一般の会員が取り残されることなく、上手く巻き込んでいければいいと考える。
- 【 副校長 】 中学校はもっと活発にPTA活動を行っているイメージがあるが、比べてみてどうか。
- 【 評議員 】 小学校も経験があるが、小中高と進んでいくにつれて参加率は下がっていくのではないかと。子供の成長に伴って、親が見なくてもできる部分が増えて、必要なことは子供が聞いてきて親に伝えるという部分があるのではないかと。
それとは逆に、3、5、13番は保護者の数値が低いですが、これは当たり前だと考える。中学校でも同じ。生徒、保護者、教員に同じ質問で答えてもらっているからだだと考える。保護者は、見えていない、わからない事については、ぼんやりとしか答えられないので仕方がないのではないかと。無理矢理項目を揃えたために生じる数字の低さなので仕方がない。もしこの数値を上げようとするならば、学校通信の中で、学校でやっていることを広報するしかない。だから、この数字に過敏になる必要はないと考える。
- 【 校長 】 全国高P連の大会でも、どうやって保護者の方に学校に気持ちを向けてもらうか、足を向けてもらえるかということで、メールを出すなど様々議論があり、実際にやってみたら連携がとても良くなったという発表もあった。本校のPTAも聞いていた。試してみたいと考えている。
また、差が開いたのは、教員の回答が上がったので差が開いたということもある。教員はやるようとしているが生徒に伝わっていないことと、自分たちではやっているつもりでも生徒にとってはまだ足りないということもあるかもしれない。貴重なご意見をいただいて、そのような見方もあると教えてもらった。

【副校長】 先ほど「応用力のつく授業をしていますか」という質問について5年前はもっと低かったと話したが、5年前は教員が49%、それに対して今年は76%である。結果としてはまだかもしれないが、授業をかえなければならないという意識は芽生えてきていると考える。

(~16:25)

4 懇談

【副校長】 55分授業になって2年目である。まだ改善の余地が多数あるが、先ほどの授業参観の感想を含めてお話をいただきたい。

【評議員】 授業参観は2回目である。年々しっとりと落ち着いて授業に向かっていると感じる。校長先生イズムが浸透してきていると感じている。

【評議員】 6月の評議委員会と、学校へ行こう週間と今日、3回授業を見た。今日は、万葉集の授業とコミュニケーション英語の授業を見たが、コミュニケーションの授業では、外国語の先生のネイティブ英語でやりとりする授業で、我々の頃に比べるとうらやましいと思った。このような授業を継続すると良いだろうと思った。

【評議員】 コミュニケーション英語は、生徒はのびのびとやっているなど感じた。全体的には当てられたときの声の低いなど感じた。理科・数学関係の授業は生徒が下を向いているという印象を受けた。

古典については、情報や参考書もたくさん持っているの、ヒントを与えられれば理解できるようになるのかもしれない。今、理解できなくても、家に帰ってよくかみ砕いて考え、将来につなげていければいいと考える。

先生方もいろいろ工夫していて、若い先生は若い先生なりのパフォーマンスでやっていたし、ベテランの先生は熱が入った授業だなと感じた。

【評議員】 英語の授業だが、グループでひとつの事に取り組んで、そのグループとグループがやりとりするというもので、とても興味深く観た。

また授業研究ということで、先生方が付箋を持って授業を聞いているところを見たが、このようにすると、とても授業そのものが良くなってゆくと思った。

【評議員】 2ページ1(2)学校に影響を与える変化について「志願者の学習意欲、進路意識等の変化」と書かれているが、意識が低くなったという意味か?

【校長】 15歳の入学時点の学力で、ともすると自分の可能性を限定しているのではないかという思いである。セルフイメージを広げれば、可能性も広がるのではないか。

【評議員】 これは入学時の生徒に対して思ったことか、それとも今の生徒が進学するうえで感じたことなのか。

【校長】 入学時点での、自分の可能性を見ているところを広げてやりたい。

進路意識の変化とは、進路希望調査をすると7割8割の生徒が国立大学を希望するが、そこに行くためには、一日1時間半の学習時間では足りないのだと伝えなければならない。希望と現実との意識を変えていくことができればと思っている。

【評議員】 今の時代で男女共学が増えて、二高の立ち位置が心配。先生方が女子教育の中で最前線の教育をしていると思っている。進学の数データだけではなく、最終的にどう生きるかという問題である。今の時代は女性が活躍するにも良い時代である。なんとか生徒に気持ちを大きくさせて、目的に向けて先へ先へと考えてもらえるように頑張りたい。

120周年について、周年記念に遭遇するというのは忙しいけれども、一番思い出に残る行事だと思うので、ぜひ盛会裏に開催していただきたいと思う。

【評議員】 学校案内のタイトルについて、以前の学校評議員会で意見を述べたが、今年の学校案内の作成にその意見を反映してもらえて良かった。

【副校長】 今年度は、部活動の記録も最新のものを掲載するよう変えた。

【評議員】 先ほどの保護者との連携ということについて、こういう時代なので、保護者も様々な事情で参加できない方も多いと思う。自宅にいながらにして何か参入できることがあればありがたい。気持ちがある方が、たとえば復興プロジェクトなど、折り鶴ひとつでも家で作ったものをまとめて一緒にかたちにするなど、連携して参加した実感が持てる方法はないか。

5 その他

【副校長】 (案内1) 盛岡てがみ館 第49回企画展「女性のがみ」案内(2/23~6/13)

二高OG 歌人の大西民子さん、画家の深沢紅子さんの手紙展示

【美術部顧問】 (案内2) 「美術部 With 華道部展」案内(2/27~28) NANAK ギャラリーヒラキン

【 校 長 】 本日は長い時間、ありがとうございました。学校の中では気がつかないことをご指導いただき、来年度の計画に反映させたい。すぐ直せるものはすぐ直していきたい。評議員会という場は年に2回ではあるが、気づいた時にはいつでもご連絡、ご指導いただきたい。本日はありがとうございました。

6 閉会のことば 【 副校長 】

配付資料名 学校評議員会資料 「授業改善のしおり」

16 : 50 終了